

# 牧草と園藝

創刊第100号記念秋季特集号

## 雪印のたね

夕張市沼川字幌内一〇六六  
雪印種苗株式会社  
中央研究農場



6

雪印種苗株式会社



北海道知事

町村 金五

## 牧草と園芸創刊百号を祝す

「牧草と園芸」の創刊百号記念特集号の発行をおよろこび申しあげます。

わが国経済は、所得倍増計画のもとに高度の成長をめざしておりますが、これとともに貿易自由化などの方向が示されていますので、本道の産業・経済の今後を考えますと、わたくしたちは最近の経済好況を手ばなしでよろこんでいられない多くの問題点を発見せざるをえません。したがって、道政の方向も、本道経済各般にわたる体質改善と近代化に指向し、清新強力な施策を進めてまいらなければならないと痛感しております。

さらに道政最大の課題であります本道総合開発の推進については、本年は新計画策定の



北海道園芸会名誉会頭

星野 勇三

## 牧草と園芸百号を祝す

北海道興農公社が誕生するや、畜産の振興には、牧草其他飼料作物の種苗の生産配布が、極めて重要なを痛感し、自ら社内に種苗部を設け、優良種苗の生産配布を行つたの

年でもありますので、この計画樹立にあつては、道民生活の安定向上をめざして最大の努力をつくす所存であります。

国民生活水準の上昇にともない食糧の消費構造が變つてまいりまして、畜産物ならびに果実の需要が著しい伸長を示し、十年後には、おおむね現在の二―三倍程度の需要が予想されるところからその主要給源地としての本道の畜産・園芸の占める地位はますます重要性を加え、今後の発展が大いに期待されております。

幸い、貴社は多年にわたり優良な牧草飼料作物等の種子と果樹の苗木を中心として園芸種苗を供給して、本道の畜産、園芸に寄与されていますが、今後本道農業経営の構造改善のため畜産、園芸の振興施策を強力に推進していくうえに草地改良、飼料作物の増産など畜産基盤の整備、および園芸への転換などに優良な種苗の需要がますます伸長していくことはいうまでもないところであります。

したがって、これら需要の増大に應ずるためにますます優良で、しかも安価に供給できるよう関係種苗の適品種の育成・改良ならびに普及にご努力いただき本道における畜産および果樹園芸の振興に寄与されますようお願い申しあげ、貴誌のご発展をお祈りいたします。

であつたが、後、公社組織の変更と共に種苗部門は乳業部門と共にそれぞれ独立して雪印種苗会社となり、牧草・飼料作物のほか、広く園芸作物種苗の生産販売をも兼ね行なうこととなり、なお進んで「牧草と園芸」なる月刊雑誌をも発行し、「日進月歩の畜産並びに園芸界の新しい技術と経営の在り方、または新しい優良種苗の解説紹介等を斯界の権威者並びに篤農家に発表してもらふ」という、時宜に適した計画を樹て、該雑誌の標題揮毫と、その発刊を叙するの文を老生に需められた。会社を信頼する老生は喜んでこれを話し、敢えて拙筆を揮い、拙文を草して以て「牧草と園芸」誌の前途に饒した次第であつた。爾來歳月を経ること八年余、同誌は健全なる発展を遂げ、来る六月号を以て、百号を重ねることになつた、誠に喜ばしき次第であつて、老生は茲に、本誌発行に熱意を以て従事したる諸君に対し、心からなる敬意を表する。

今や「わが国の農業経営は、一大転換を見んとしている。即ち、所得倍増説を基調とす





雪印種苗専務取締役

牧草と園芸編集兼発行人

五十嵐

清

## 牧草と園芸百号の感想

牧草と園芸の創刊号を世に送り出したのは昭和二十八年三月一日であつて、本号は九年の星霜を経て丁度第百号にあたるので感慨深いものがある。いま日本の農業は曲り角に來たと言われ、畜産と園芸の振興によつて體質改善を断行する以外に解決策がないということとは定説のようになってゐる。

この九年の間に国民の生活内容は驚く程の変化を示し、農業の在り方についてはいろいろと論議され、農業基本法の制定となつて検舞台に登場した感がある。

創刊号発行当時は主食である米が不足で多額の外貨を以て輸入していたが、最近では食生活の改善向上と米の増産によつて自給の域に達した。麦は一年の総生産程度の大量ストックに悩む政府がこの春に家畜飼料に転用すべく放出する始末となり更に麦の作付を減らす方法として麦作を他作物、特に園芸作物、飼料作物等に転換することを奨励する迄に変化した。

よつである、本誌またこの方面に一段の力を致されんことをここに再び希望致しておきたい。

北海道興農公社なる多分に公共的意義を有する事業の一部としてその起源を有する雪印種苗会社は、牧草と園芸誌を通じて農家と固く手を結び、より良き種苗の生産と普及に努力せられ、永く永く農家の友として健全なる発達を遂げられんことを希望して止まない。至囑、至囑。

(昭和三十六年五月十二日記)

牛乳は当時の三倍近くも増産されたが需要が生産を超越す状態で、年がら年中各地で乳業会社の集乳合戦が絶えないありさまである。

肉の需要も増大して特にハム、ソーセージといったいわゆるインスタント・フードブームの如き様相を示している。一方国民の蛋白質資源の大宗であつた魚類は年々減少の一途を辿り、最も主要な資源である北洋漁業はソビエットの圧迫によるものか、年々先細りの淋しさを加えているといつた具合で、水産会社が続々と陸に上り、畜産加工や農産加工に手を出すという大きな変化転換が現われて來た。

弊社は全国の畜産と園芸の進歩発展に寄与することを目的として創立された会社であるので、一貫して、畜産の根源である飼料作物や園芸作物の種苗と家畜飼料を取り扱いこれが改良増殖と流通に向つて日夜努力を重ねている次第であつて、国の重要政策である農業の體質改善の線に沿つて御奉仕できる仕事を社業としてこの上ない幸せと感ぜ、また責任の重要さを痛感しているところである。随つて弊社の月刊誌「牧草と園芸」は弊社そのものをご理解願うと同時に飼料作物の改良増産、飼料の合理的利用を研究実践するため、また園芸の飛躍の進展を図ることを読者と共に研鑽するために産まれたものであり、いわば必要によつて発刊され、必要によつて続けられて來たものである。もちろん学界の諸先生、指導面の諸先輩、農家の方々その他各方面の御支援御同情によつて育てられたとい信じ、衷心より謝意を表する次第である。今後は更に皆様の御指導を得て内容の充実に一段と力を致し、日頃の御愛顧に応えたいものと念願しているところである。

# 牧草と園芸創刊百号を祝して

農林省畜産局自給飼料課

刊行物を定期的な出版することは非常にむずかしいことであるとき。また、自分の多少の経験からもそうだと考えていた積りであるが、日頃、雪印種苗出版の牧草と園芸の寄贈に預つた折には、そんなことに気がまわらず、ただ有益な印刷物だと感謝の念をもつて拝読させていただいたようなわけで、今回、創刊百号の記念出版を企画されていると聞いて、この刊行物出版に当られている編集者に改めて敬意を表する次第である。

業界の出版物は数多く、いずれも有益なものと拝読しているが、これらの刊行物は、その商社によつて異なり、内容は種々雑多であるが雪印種苗出版の牧草と園芸は牧草部門に重点をおき、牧草類の栽培法から収穫、調製にわたり、広く啓蒙的な面を狙つて編集し、牧草についての啓蒙を通じて種子の販売網の拡充を企図しているように受取られ、見方によつては、ただ単に種子販売にとどまらず、将来に亘る販売営利を継続するための手だてとして牧草の栽培及び収穫、調製から土地利用についての技術並びに経営経済的な面に亘り啓蒙奉仕しているものとみられ、営利を割いてこの種刊行物を出版されている点については、私達奨励の面の行政にたずさわるものとしては、後進的な牧草類の栽培奨励に大きく裨益しているものとして公的な立場からも注目すべきものである。

記事内容についても、ただ単に識者の寄稿のみによるものでなく、自ら農場を経営し、その試作の結果を取りまとめ掲載しているほか、会社の技術者を全国に派遣して優良栽培事例などを調査、収録するなど公的機関が行なわなければならない面にまで亘り編集されている点、単なる営利のためにする出版物とみるよりは奉仕的な出版物とみるのが妥当なようにも思料され、会社の企画に對し改めて敬意を表すると共に、今後ますます発展せよう牧草類の種子需要に對症できるように会社が発展されることと、永年蓄積された技術を更に積み重ね、啓蒙奉仕についてもこの上とも寄与されますことを念願してお祝いいたします。

# 牧草と園芸創刊百号誌に寄せて

雪たね同友会員 三輪 重徳

創刊以来良き指導誌として今日に至つた『牧草と園芸』が、創刊百号を数えたことは諸先生、並びに役員の方々の努力の賜物であり、非常に悦ばしい次第であります。いわゆる所得倍増論が取りざたされている今日従来を農林政策を反省し米麦偏重の農政を改め、畜産の重要性を認め、これを主軸とした畑作物振興と土地開発が力強く推進されてまいりましたが、顧みれば、『牧草と園芸』誌は、創刊以来一貫して正しい合理的な農業のあり方としての牧草の重要性を、ややもすれば従来をやりかたに陥り勝る酪農家に、斯界の諸先生方の懇切丁寧な説明を仲介して新しい適切な知識と激励とを与えてこられた意義は非常に大きいものと存じます。

いうまでもなく北海道に於ける農業経営は好むと好まざるとに拘らず草地農業を主軸とするものでなければなりません。自然の恵みと土壌により生産する牧草を家畜に与え家畜は乳、肉、卵等の畜産物をわれわれに提供して更に糞尿を土壌にかえすという循環をすれば、糞尿と、牧草の根系作用によつて耕土は腐植団粒構成を成立して、肥効分を固定し、また侵蝕を防ぎ土壌の肥沃度が逐年累積されて植生効果がるのであります。古来一良い牧草のある所には良い家畜がいる」といわれています。古来、牧草を愛し、牧草をよく理解して良い牧草を作りこれを家畜に与えることは、家畜の健康上からもまたは経済的にも非常に大切であります。と申しますのは、幼畜の時から蛋白質・ミネラル・ビタミン等の豊富な牧草を放牧して十分に与えれば、優れた体位、内臓を持つた家畜となり、胃腸が丈夫で消化がよく、耐久力のすぐれた経済的な家畜になるからであります。これは濃厚飼料のみによる一見合理的に思える美食によつて飼育されたものと比較してみると、その差異は非常に明確なものであります。

これからも牧草と園芸誌を私共の良きリーダーとしていくつもりですが、希わくば北海道農民のみならず広く日本の農村の津々浦々にまで、『牧草と園芸』誌が座右の銘として愛読され日本農業の改善発展に資せられんことを心から念願して止まらぬ。

(北海道網走郡端野村北登)

# お祝いと御礼の言葉

雪たね同友会員 武藤 吉伊

御誌『牧草と園芸』が昭和二十八年創刊以来この六月号を以て百号に到達されるということは、誠に慶祝の情禁じ難いものを感じると共に、全国各地で本誌の御指導に依り今や曲り角に米たといわれる農業経営に如何程甚大な貢献をもたらしましたことかと、いささか私の雪たね同友会員としての愛読と体験を顧みて感謝に堪えないものを覚え、茲に慶祝と感謝の辞を惜しみなく送りたいと思ひます。

奇しくも私が約二町歩の増反開拓を始めましたのが昭和二十八年でありました。三十年の秋に配分が決定し、如一町七反採草地二反の売渡を受けましたが、私は近くの工場へ通勤している兼業農家ですし、殆ど妻一人で、日備を入れてやりましてもなかなか大変でした。三十二年は大雨量年で、新聞では「人と草との戦い」と書いたくらいで、開拓の前途も危ぶまれ、非常な不安に襲われたわけですが、勿論赤字経営でした。ここで、酪農経営をめざして、牧草を導入しようと思ひ、三十二年八月より御誌の愛読者となつたわけでありました。今や牧草地は五反歩となり、更に果樹を入れ、傾斜地は草生栽培、平坦地は目下のところ清耕間作法でやつて行こうと思ひます。果樹は当地は柿以外あまりないのですが、各種取りませ五反歩ほど新植しました。将来は果樹と酪農を組合わせた経営をやりたいと念願しております。

あと数年で私は勤務先の方は止めますので、目下耕作は妻と娘達の手でやり、私は専ら果樹や牧草の研究に専念し将来に備えたいと思つております。

今年には開拓の成功検査の実施される年ですが、殆ど開墾は完成しておりますので、自信を持っております。また今夏は念願の開拓道路工事も施工される予定で、この地区の開拓も軌道にのりつつあります。

私は衷心から御誌百号をお祝いする気持ちでいっぱいです。この機会に私の体験を述べ御誌に厚くお礼を申しあげると共に今後の御指導をお願いするわけでありました。日本農業の発展のために、御誌の御発展をお祈りし期待しております。(昭和三十三年、五、五) (福島県耶麻郡高郷村西ノ窪)